

IT-3 技術KIを活用したプロジェクトマネジメントの改革の実際

8/31 15:30 <一人ひとりに光をあてる マネジメント改革>

クオリカ株式会社
西日本事業部長 坂本 茂

【セッション概要】組織風土改革を目的に「技術KI」※を導入。結果として、現場力が向上し、赤字プロジェクト(失敗プロジェクト)が減少しつつある(ビジネスの成功)。また、社員の成長・自律化が進んでいる(個人の成長)。

これらを実現するために具体的にやってきたことを、「見える計画」「課題の事前発掘」「ミーティング」「振り返り」「マネージャーのふるまい」をキーワードで紹介する。あわせて、成果と今後の課題をまとめとして報告する。

※「技術KI」:(株)日本能率協会コンサルティングの登録商標

【講師略歴】昭和49年4月(株)東洋情報システム(現TIS)入社
平成6年4月 同社 大阪産業システム事業部 大阪製造システム第1部 部長
平成14年4月 コマツソフト(株)(現クオリカ) 出向 第2事業部 副事業部長
平成18年4月 クオリカ(株) 執行役員 西日本事業部事業部長

IT-4 プロジェクト目標によりプロジェクトパフォーマンスは確実に向上する

8/31 16:40 <経営目標を中心とした「目標中心型開発スタイル」の提言>

株式会社富士通東北システムズ(ビジネスソリューション事業部 産業・流通ソリューション部)
大沼 哲也 **C&P**

【セッション概要】経営者にとって「システム構築プロジェクトの成功」とは、構築したシステムで期待通りの価値(利益)を生み出すことである。しかし、SIベンダーやお客様のプロジェクトメンバーは、この真の目的を、どれほど意識してシステムを構築しているだろうか。構築すること自体を目的(ゴール)と考えていないだろうか。

本講演では、「目標中心型開発スタイル」を実践したプロジェクト事例を基に、如何にして目的からブレないシステムを構築するか、また、そこから得られる効果を紹介する。

【講師略歴】1988年(株)富士通東北システムズ入社。東北地区の中小流通業・製造業のプロジェクトに従事。1995年より東北地区の流通業・製造業の多くのSIプロジェクトのPMに従事し現在に至る。独自の管理ツールや方法論を開発し社内展開。2005年 富士通SSコンベンションにて最優秀賞受賞。

EG-3 三方良しの公共事業改革

8/31 15:30 <優秀なPMの暗黙知を形式知に:人中心のTOCクリティカルチェーン>

株式会社ビーイング 取締役
日本TOC推進協議会 理事 岸良 裕司

【セッション概要】「TOCは常識をベースとしている」とは良く言われているが、日本になじみ深い現場における暗黙知とTOCの関連について説明しながら、わかりやすくTOCのプロジェクトマネジメント手法であるクリティカルチェーン(CCPM)の最新のスケジューリング手法を紹介する。

また実践事例として、P2Mのフレームワークで、国土交通省北海道開発局を舞台に、公共事業の信頼回復のために現場が取り組んだ「納税者良し、企業良し、行政良しの三方良し」の改革の実例を紹介する。

【講師略歴】1984年京セラ(株)に入社。2003年ヘッドハンティングされ、土木積算業界のソフトでトップシェアを誇る(株)ビーイングに入社。低迷している建設業界の再生にチャレンジしている。著書『目標を突破する実践プロジェクトマネジメント』『実学社長のマーケティング』(中経出版)

EG-4 [パネルディスカッション] 建設生産システムの将来

8/31 16:40 <法制度の変革と建設プロジェクトのマネジメントの実像>

京都市立大学大学院工学研究科助教授/日本CM協会前会長 古坂 秀三、鹿島建設株式会社 建築管理本部 建築企画部 企画・管理グループ長 部長 山本 明男、株式会社竹中工務店 ワークプレイスプロデュース本部 PM/CM担当 課長 坂本 圭司 他

【セッション概要】設計の進め方は東京オリンピックの頃と変わらないと言われるように、建設生産システムにも革新的な変化がないと言われる。

一方で、プロジェクトの大型化、複雑化、短工期化等はあるが、その実態は多様な発注形態・方式などの言葉の影であり明確ではない。法制度の疲労から大きな問題を抱え、その改正が大きな議論の対象になっている中、建設産業界に関係するさまざまなパネラーによる建設生産システムや建設プロジェクトマネジメントなどの議論を通じて、今後の建設産業界の展望をはかる。

【講師略歴】古坂秀三:1951年生まれ。1974年京都大学工学部建築学科卒業。清水建設勤務を経て1976年京都大学工学部助手。1986年京都大学工学博士。1987年京都大学工学部助教授。研究テーマは建築のプロジェクトマネジメント、プロジェクトマネジメントの国際比較など。他によるパネルディスカッション。

MS-3 どうやってPMを転がすのか!!

8/31 15:30 <PM実践現場におけるプロジェクトナレッジの蓄積と活用>

株式会社日立製作所原子力事業部技師 赤根直樹、日立研究所主任研究員 横田 毅
日立事業所技師 吉川和宏、原子力技術本部長付 新野 毅 **C&P**

【セッション概要】昨今のビジネス現場では先制的PMの実践が必須であり、日立はグループ全体でPMの高度化に取り組んでいる。特にプレプロジェクト(黎明期~契約完了)ステージの重要性が高く、電力グループではその時点のPM支援スキーム構築に注力している。本講演では、プレプロジェクトでの業務プロセスを運営する機構のあるべき姿と、プロジェクトの正当性評価や個々のプロセスで有効活用されるナレッジを体系的・構造的に構築する取り組み等について具体的に紹介する。

【講師略歴】代表講演者 赤根直樹:プラント建設計画、リスク管理、等に関するPM実務経験を生かし、現在はPMにおけるリスク管理を支援するスキームとナレッジの構築、推進に従事。共演者 横田 毅、吉川和宏、新野 毅:電力グループにおける各種PM高度化活動の推進に活躍中。

MS-4 [実践記録] 技能教育の新たな可能性に挑む

8/31 16:40 <ブレンド教育が理解力を高め技能を育む>

フジノン株式会社 総務部
主任 天野 高宏

【セッション概要】2007年問題が目前に迫った現在、若手技能者の育成は重要な課題である。ヒューマンリソースを最大限に引き出し短期間で育成することが急務である。

その答えを模索すべく、従来から取組む技能五輪の選手育成に新たな試みとして映像教育を導入し、コーチ、支援部隊、外部評価者のチームでプロジェクトを運営した。その結果として、実技教習と映像教育のブレンドで脳の活性化を促し、理解度が大幅に向上するなど様々な効果が得られ、好成績にも繋がった。その育成プロセスとノウハウを紹介する。

【講師略歴】1987年に富士写真光機(現フジノン)へ入社。経理部で原価計算、経営企画室で予算計画の立案等の業務を経て2001年に総務部へ。現在、広報業務全般の他、経鼻内視鏡を中心とした広告宣伝活動も担当する。また、総務部の人材教育の一環として技能五輪に事務局として携わる。